

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫	ユニット名	1F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成27年3月9日	評価結果市町村受理日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな家庭菜園での野菜作り収穫を、利用者様と一緒に楽しんでいます。近隣の商店へ買物に出掛けたり、町内の子供会による秋祭りの踊りなどに来て頂いたり、季節行事で手作り物をおすそ分けを行い地域交流を行っています。利用者様の経験を活かした、干し柿作り、ぼた餅作り、干し芋作り等季節を感じていただくと共に、出来る力を発揮していただいて生かす。又、利用者様ご家族のご要望を伺い一緒に楽しんでいただける行事、一緒に外出できる行事を企画し実行しています。自由に行き来できるように配慮し合同でのレク活動にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

沼津市郊外の住宅地に立地し、地域との交流や連携を常に考えながら運営されている事業所である。近隣の店舗への買い物時や散歩時に近隣の住民との交流があり、ぼた餅や恵方巻作りの際は近所におすそ分けをし、自治会総会にホーム長が年1回出席し連携の働きかけをしている。地域の秋祭や敬老会に参加し、ハーモニカやバンド演奏・読み聞かせ・習字等のボランティアの受入れも多い。利用者には笑顔が多く伸び伸びと過ごしており、ホーム長や職員はチームワークが良く、和気あいあいと声を掛け合い介護に取り組んでいる。会議報告や介護記録は細かく丁寧記入され、職員全員が情報を共有し運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「みんな仲良く集う毎日」を朝の申し送りの際、唱和し、実践に繋げている。	法人の理念「敬愛・創造・貢献」と事業所の理念「みんな仲良く集う毎日」、そして事業所の今月の目標を事務所内に掲示すると共に、事業所の理念を毎朝の申し送り時に唱和し共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事参加の呼び掛け、手作り(餅、恵方巻)のお裾分け、秋祭りの踊りの場所提供、敬老会参加等、地域密着を働きかけています。	近隣の店舗への買い物や散歩時に近隣の住民との交流があり、自治会総会に年1回出席し働きかけをしている。地域の秋祭や敬老会に参加し、ハーモニカやバンド演奏・読み聞かせ・習字等のボランティアの受入れも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの神社、周辺の散歩の際には、積極的に挨拶や、声掛けを行い近所の方からもお話を頂き認知症を少しずつ理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度、ホームでの利用者様の生活や様子を報告。事故、ヒヤリハットへの対策を報告。ご家族、相談員、包括の方々から意見質問等を汲み取り次に繋げています。	年6回の開催を継続しており、地域包括支援センターや介護相談員・家族と利用者が参加している。事業所から利用者状況や活動状況・事故・ヒヤリハット報告等を行い、参加者からも意見が出ている。生活を写したスライドショーも引き続き行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヵ月に一度GH会議へ参加。他施設との情報交換相談を行っている。介護申請時等担当者との話をさせて頂いています。	運営推進会議に地域包括支援センターと介護相談員が参加している。市介護支援課へ運営推進会議についての報告をし、随時相談をしている。地域包括支援センターと市介護支援課も同席する市内南部地域のグループホーム会議にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、ミーティングで身体拘束について、勉強話し合いの場を設け理解に努めている。構造上、玄関は施錠されているが外出の際には適切に対応している。	スピーチロックを含め身体拘束をしない介護についての研修や話し合い等を実施し理解を深めている。若い職員への注意が必要な場合は少し間を空けて注意している。玄関の自動施錠については、職員の事務室在室中は施錠を外している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、ミーティングで勉強、話し合いの場を設け、また日頃より利用者様を敬い尊重する声掛けに徹しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、一部職員は、研修で学んでおり、他職員への熟知に努めています。利用者様やご家族からの必要に応じ、相談を重ねて意向に添えるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、面接訪問を行い、入居時には契約書・重要事項に添った説明を行い質問に答えている。退去時も説明を行った上で解約をの手續きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族からは、運営推進会議の際に要望や意見を伺っています。面会時等来所の折に時間を掛けてお話を伺います。又、意見箱を設置しています。	多くの家族が来訪し、運営推進会議や家族会に参加し意見や要望を聴取する機会が多い。聴取した内容は「事故・クレーム・要望報告書」に記録し、職員間で共有して運営に反映させている。意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回フロアーミーティング、全体ミーティングを活用している。又、日常の何気ない会話の際の提案等を職員より意見提案などを含めてを吸い上げて、管理者ミーティングに繋げている。	フロアーミーティングと全体ミーティングを毎月各1回開催し、意見や提案を出しやすい雰囲気作りをして運営に反映させている。日々の介護でも、何気ない会話の中で意見等を吸い上げ「事業所代表者会議」で取り上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月実績勤務表等を報告しています。働きやすい環境の場となるよう要望とを聞き取りその度対応しています。キャリアパスを取り入れ仕事のやりがいを持てるよう環境整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回以上段階に応じた法人内研修が行なわれています。研修参加者は、事業所内でのミーティングの際研修内容をミニ研修会のフィードバックしています。又、ミーティング時には社内研修委員による短時間の研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に一度、GH連絡会議に参加し意見交換や各々な相談の機会としています。他の事業所見学や運営推進会議への参加を通じて、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を汲み取り、傾聴に姿勢で面談に努めます。可能な限り本人に関わった方々からの情報を頂き安心して頂ける信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談やツール(センター方式)の使用により、ご家族の思いを汲み取る様努め、介護に携わった思いやご苦勞に思いを寄せます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されるご家族の意向を尊重することはもちろんですが、ご本人ご家族にとって入居が最善の方法か、見極めることも重要なことと考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や掃除、洗濯物を干したり片付けたり等の日常生活の中で、出来る力を活かし継続、可能な限り参加して頂き、充実感達成感を感じて頂ける支援に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現状や変化は随時報告すると共に、季節行事へのお誘いをし、一緒に参加して頂く様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話などから、ご本人の行きたい所や会いたい方などの希望や思いを聞き取れるよう努め、め可能な限り思いに添えるように努めています。	家族や親類とホテルに外泊したり、馴染みの美容院やコンサート・孫の結婚式・墓参り等に家族同伴で出かける利用者がいる。友人や知人が来訪し居室で面談する利用者もあり、それぞれに関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人柄、生活史等を考慮し、良好な関係が保てる様、席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も健康状態や生活について伺ったり、催事へのお誘いを行っております。退去後も必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に希望、意向を尊重し可能な限り行っています。困難な場合でも、検討しながら希望に添えるよう支援しています。	利用者に寄り添いながら、日常の会話や表情等から本人の意向を汲み取り、食事や外出・散歩など具体的な要望に応えている。また、職員はフロアミーティングで対応を情報共有し改善させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人、ご家族居宅ケアマネより生活歴、生活環境などの情報を頂き、職員間で情報の共有、周知を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な日課はあるが、体調に考慮した過ごし方等、柔軟な支援努めている。画一的な支援ではなく個別支援に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常気付いたことをミーティング等で話し合い、心身状態の変化に応じてご本人、ご家族、主治医往診時に相談する等他職種の意見を反映さ、ケアプランを見直し介護計画を作成している。	個人毎の日常観察記録やミーティングでの合意を経て、利用者や家族の要望を取り入れ介護計画を作成している。心身の状態に変化がみられた時は、主治医往診時に相談して計画の見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送り等で職員間の情報を共有し実践へ反映していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	快適に且つ穏やかに過ごして頂ける様、通院介助、物品購入、外出支援、一人一人の状況に応じた支援やサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣市町村の一般ボランティア、ご家族様のボランティアの活用。又、恵方巻等手作りレクを行なった時には、ご近所へおすそ分けし交流しています。散歩、スーパーへの顔物同行を行なっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に医療機関の確認を行なっています。ホームの医療連携体制の説明を、ご本人ご家族へ行っています。医療連携としてつき2回のおうしんを請けています。急変時には24時間対応が出来ます。	これまでのかかりつけ医受診の利用者と、月2回のホーム協力医受診者の受診結果を共有して対応している。また急変時には24時間対応の医療連携態勢を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設巡回看護師とは、24時間対応で連絡が出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師看護師ソーシャルワーカー等との連携、情報収集、情報の把握メンタル面などに考慮しながら退院に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて、ホームでできる事できないことを含めて、ご家族に報告説明を行っています。意向を書面に記入して頂き、状況変化の時には、再記入いただいています。	家族には、入居時に重度化の対応指針を丁寧に説明して確認をいただいている。重度化や終末期等の状況変化毎にホーム協力医等と連携し、家族に確認しながら情報を共有して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿ってミーティングでいつ、どこでなにがあってもすぐに対応できる様に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加し消防との連携を取り適切な対応を行っています。	消防署の指導を受けながら避難方法や夜間想定通報訓練を実施している。但し、夜間避難等の人手不足時に近隣住民の応援を頂くことや、津波の際の避難方法が未定である。	夜間避難への近隣住民協力の要請交渉や、津波避難対策としての防災備蓄品の2階貯蔵、1階利用者の2階への避難等、具体的にできることから実施を期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を持って接し、その方の生活史などを把握尊敬したうえで、言葉使いや接し方対応など、不快感を与えないよう注意し心掛けます。	入職時の説明やその後の研修で、職員は利用者の尊厳とプライバシー確保についての対応を学び、羞恥心を考えて声掛けをする等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りでは、利用者様個々の状況に合わせ、居室に伺い傾聴や個別支援での会話で汲み取れる様ゆっくりと答えて頂けるような声かけに努めます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や集団生活の枠組みに無理に合わせる事が無い様、趣味や休息時間を考慮し、心穏やかに過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪時や着替えの際に(似合う)等の声掛けを行い、利用者様自身に自身の身なりに興味を持って頂く様心掛けている。移動理容室の利用の支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内菜園で季節の野菜を収穫している。節分の太巻きや、お彼岸のおはぎのような季節の料理を利用者様参加で作ったり、時には餃子を全員で作ることで、食事の楽しみを持って頂いている。	事業所内の菜園で収穫した野菜が食卓に出る楽しみや、食事を美味しく食べるために食事中に楽しい会話が弾むように支援している。利用者がおはぎ等季節の料理作りに参加したり、『食事』への関わりを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録を基に必要なに応じ医師、看護師の指示を仰ぎ、個々の体調に合わせ対応している。変更等は、フロアミーティングでスタッフ全員確認を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルに合わせて、声かけ付き添いながら、口腔ケアの見守りや仕上げ磨きの支援を行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意のある方には、自立支援を心掛けています。排泄表を活用し、パターンの把握に努めています。	個々利用者に対する無理のない排泄支援を行い、夜はポータブルトイレで利用者の負担軽減を図っている。それに関連して時間帯による水分補給のきめ細かい管理を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品の提供を行い、家事、レク活動時に体を動かして頂くよう声掛けを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュール表はあるが、強制的ではなく声掛けの工夫等によりご希望に添えるように努めています。	週2回の入浴スケジュールにこだわらず、入浴希望者にはその希望を叶える様に声掛けを行っている。入浴を拒否する利用者には、担当職員や入浴時刻を変えて入浴を促す等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の希望にて居室、ソファークタツ等で過ごして頂いています。夜間は温度調節や湯タンポを入れたりと支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表にはそれぞれの服薬が把握できるようになっている。個人ファイルに処方薬内容を記載している。副作用について知識向上に努め変更時には申し送り等で伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や日常会話の中から情報収集して塗り絵や晩酌、パズル等を行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出希望の利用者様には可能な限り努めています。また、誕生日には外食や買い物等希望に添えるように努めています。	天気の良い日には、四季折々にベランダで花壇観賞や野菜等の収穫などを楽しむ配慮をしている。散歩や外出を希望する利用者のために、基本的には3時間以内で職員と利用者が1対1で外出できる様なきめ細かい対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されている方が、現金を所持することはご遠慮いただいておりますが、近所の商店では、職員が付き添い、立替払いで買物を楽しんでもいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に寄り添い手紙等やり取りができる様支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感のある壁面飾りや行事などの写真を掲示して思い出話をしています。	共用の空間は広く明るい家庭的な雰囲気が醸し出されている。壁面は書き初めや雛飾り・旅行写真等で季節感が漂っている。職員が食事の時に声掛けを行うことで、食事が美味しく楽しいものとなり笑い絶えない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の趣味や性格に考慮しながら、ソファ、コタツ等自由に利用できるよう配慮しています。又、会話の合う利用者様が心穏やかな空間が作れるよう席の配慮等に工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を確保しながら、ご本人家族の意向とあわせリラックスできるよう、なじみの家具、面会時の写真を飾ったりと工夫しています。	馴染みの使い慣れた家具や備品等のレイアウトは、個々の利用者の気持ちを考えて配置されている。安心感と安らぎが得られる空間が居心地の良さに繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子移動の方や杖歩行の方など皆さんが安全に過ごせるような環境づくりに努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271101335		
法人名	有限会社 在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい香貫	ユニット名	2F
所在地	静岡県沼津市下香貫楊原530-16		
自己評価作成日	平成27年3月9日	評価結果市町村受理日	平成28年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail.2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2271101335-00&PrefCd=22&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成28年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小さな家庭菜園での野菜作り収穫を、利用者様と一緒に楽しんでいます。近隣の商店へ買物に出掛けたり、町内の子供会による秋祭りの踊りなどに来て頂いたり、季節行事で手作り物をおすそ分けを行い地域交流を行っています。利用者様の経験を活かした、干し柿作り、ぼた餅作り、干し芋作り等季節を感じていただくと共に、出来る力を発揮していただいて生かす。又、利用者様ご家族のご要望を伺い一緒に楽しんでいただける行事、一緒に外出できる行事を企画し実行しています。自由に行き来できるように配慮し合同でのレク活動にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんな仲よく集う毎日」という運営理念に基いて、安全かつ安心できる、そして笑顔の絶えない生活環境を目指しています。朝礼で理念を唱和し共有しています。。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りや敬老会には利用者様と一緒に参加しています。又ホーム主催の行事には、ポスティング等でお知らせし参加して頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩や買物の際顔見知りの方ができ、挨拶や会話を通してホームや認知症を理解していただき、又、気軽に立ち寄っていただくよう声かけを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告やヒヤリハット事故報告など、日々の生活等の報告を行い、ご家族や利用者様からの要望質問を伺い、意見交換を行い、サービスの向上に繋がるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の月1回の訪問や、グループホーム会議への参加等など市との連携を図っています。運営推進会議のご案内をすると共に、諸手続きの為市役所へ行った時には、担当者と話をさせて頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のポスターを掲げ、職員全員に意識付けを行っています。構造上ロックが掛かってしまうが、外出希望者に対しては、開けるよう努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の安全、健康面など配慮すると共に、ミーティング、申し送り、日常の言葉使い声かけなど、日頃より言動について徹底するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員は学んでおり、そのほかの職員へ周知に努めています。利用者様やご家族から必要に応じて、相談を重ね意向に添える様努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、面談訪問を行い入居時には、重要事項説明書や、契約書に添って説明、質問に答えています。退去時にも説明を行い解約の手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、要望や意見を伺ったり、面会時等来所の際には、傾聴の姿勢で話を伺います。意見箱を設置を行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティングで、職員の意見や提案を汲み取る機会として活用しています。又、日常の何気ない会話での提案も含め、管理者ミーティングなどに繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績勤務表など、毎月報告しています。キャリアパスを取り入れ、遣り甲斐をもてる環境整備を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が、段階に応じて月1回以上行われている。又、社内研修でも職員のレベルに合わせた研修への参加を積極的に勧めミーティング内で成果をミニ研修会としてフィードバックしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1度のグループホーム連絡会議に参加し、意見交換、相談の機会を持っています。又、近隣事業所への見学や運営推進会議への参加し、サービスの向上に努めています。		

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の要望を汲み取り、傾聴に姿勢で面談に努めます。可能な限り本人に関わった方々からの情報を頂き安心して頂ける信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	関係者が共同でケアをするのとともにご家族の不安、要望等に耳を傾け信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を汲み取り今、必要としている支援を見極めるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る力を尊重し、不十分な部分は支援していく。身体的に不可能な方からも、人生の先輩として経験や知識を出して頂けるような話しかけに努めます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の現状や変化は随時報告すると共に、季節行事へのお誘いをし、一緒に参加して頂く様努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出、外泊の支援に努めます。誕生日には、ご家族や友人との食事会を計画。関係が途切れない様、支援に努めます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、人柄、生活史等を考慮し、良好な関係が保てる様、席の配置や見守りに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も健康状態や生活について伺ったり、催事へのお誘いを行っております。退去後も必要に応じて本人、家族の相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本に希望、意向を尊重し可能な限り行っています。困難な場合でも、検討しながら希望に添えるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご本人、ご家族より生活歴、生活環境などの情報を頂き、職員間で情報の共有、周知を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調に考慮した過ごし方、有する力を把握し、支援に努めます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常気付いたことをミーティング等で話し合い、心身状態の変化に応じてご本人、ご家族、関係者と話し合い、ケアプランを見直し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、日誌、申し送りノートの活用。朝夕の申し送り等で職員間の情報を共有し実践へ反映していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	快適に且つ穏やかに過ごして頂ける様、通院介助、物品購入、外出支援、一人一人の状況に応じた支援やサービスに取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事のポスティングを行い、行事の参加をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月何回か往診を行い、何かあった際は医療に連携を取り適切な対応を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	巡回看護師に疑問に思った事や服薬の指示を頂き対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に生活必需品を医療機関と連携し情報交換を行い家族様に説明しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて、ホームでできる事できないことを含めて、ご家族に報告説明を行っています。意向を書面に記入して頂き、状況変化の時には、再記入いただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿ってミーティングでいつ、どこでなにがあってもすぐに対応できる様に行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練に参加し消防との連携を取り適切な対応を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を持って接し、その方の生活史などを把握尊敬したうえで、言葉使いや接し方対応など、不快感を与えないよう注意し心掛けます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご要望訴えがあった際には、その思いを受け取り、できる限り対応に努め満足感をもっていただけるよう支援します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務や集団生活の枠組みに無理に合わせる事が無い様、趣味や休息時間を考慮し、心穏やかに過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に希望に添って移動美容室を利用していただいています。又、鏡を見ていただくよう、声かけを行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に合わせた食事形態の工夫、出来る力の活用で一緒に食事作りや片付けの機械を設けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の食事摂取量・水分量の記録記入、個々に応じた食事形態、水分摂取形態の工夫を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のレベルに合わせて、声かけ付き添いながら、口腔ケアの見守りや仕上げ磨きの支援を行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握が出来るよう排泄表を活用しています。尿意便意のある方には自立支援を行なってます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すような食物繊維や起床時の乳製品の提供。排泄チェック表による排便確認を行い、便秘時には主治医看護師の指示の元下剤使用を支援します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴スケジュールは有るが、強制ではなく、気持ちよく入浴していただく為の声かけや入浴時の会話に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は意向に添って、ソファやベッドで休まれたりしています。夜間は気持ちよく眠れるよう、湯たんぽを使用したり居室内の温度調整に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの指示書を日常目の触れる個人ファイルに綴じ、内容と副作用の把握を行っています。臨時薬や薬変更時には、申し送りノートや、朝夕の申し送りで徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴や生活習慣などを参考にしながら、利用者様一人ひとりに対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物と一緒に外出し季節の食材を選んでいただいたり、近所の神社公園に出かけています。個別に希望を伺い誕生日には行きたいところに一緒に外出したり、ご家族による外出支援に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居されている方が、現金を所持することはご遠慮いただいておりますが、近所の商店では、職員が付き添い、立替払いで買物を楽しんでいただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや手紙の投函の支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、毎月施設内のディスプレイを工夫し、写真の掲示も楽しんで頂けるよう貼り方を工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や、趣味など考慮しながら、気の合う利用者様と会話ができるよう、席の配置など工夫し配置に努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は長年馴染まれたものなど、可能な限り、持ってきて頂いております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、利用者様の障害とならないように、できる限りを置かないよう配慮しています。居室内は、利用者様の機能を発揮出来る様ベッドの位置など配置に努めています。		